

平成23年 8月29日

平成23年度西日本地域高等専門学校技術職員特別研修（物質系）受講報告

物理・化学系班 鈴木 猛

1. はじめに

この研修は、高等専門学校の技術職員に対して、その職務の遂行に必要な高度で専門的な知識を習得させ、技術職員の資質の向上を図ることを目的とされた。

2. 主 催

独立行政法人国立高等専門学校機構

3. 担 当 校

和歌山工業高等専門学校

4. 研修内容

期 間 平成23年8月24日（水）～26日（金）

研修会場 豊橋技術科学大学 情報メディア基盤センター

第1日

午前 特別講演1 「物質系で教育・研究を遂行するために：環境の変化への対応」  
豊橋技術科学大学 副学長 角田 範義

午後 特別講演2 「世界の中で共に生きる力を育てる」  
和歌山工業高等専門学校 校長 堀江振一郎

施設見学 花王株式会社 豊橋工場

第2日

午前 講義1 「環境を守る触媒技術」 豊橋技術科学大学 准教授 水嶋 生智  
技術課題の発表及び討議 【第1セッション】

午後 講義2 「有機化学の射程」 豊橋技術科学大学 准教授 岩佐 精二  
研究報告 和歌山工業高等専門学校 物質工学科 助教 岸本 昇

和歌山工業高等専門学校 物質工学科 助教 楠部 真崇

豊橋技術科学大学 学内施設見学

第3日

午前 技術課題の発表及び討議 【第2セッション】

午後 技術課題の発表及び討議 【第3セッション】

5. 所感

今回の特別研修会は、特別講演、講義、教員の研究発表及び技術課題の発表と実に内容の充実した研修会であった。

技術課題の発表は、専門的な研究に関するものは1件だけであり、あとは学生実験関係や公開講座、出前授業などの地域貢献に関するものであった。それぞれの高専が小中学生の理科教育やその地域の産業への支援などを積極的に行っているのが良く分かった。

中でも佐世保高専は、技術職員による出前実験・授業などを行っており、地理的に不利な中学校での出前授業や1中学で3年間行うなど、その内容も素晴らしいものであった。

また、北九州高専の方の公開講座を通じて「子供が理科離れをしているのではなくて、大人が理科離れをしているのではないか」との言葉が印象的であった。子供たちに科学に触れる場を多く提供するのは大人の責任である。このことは沼津でも、もう一度考える必要があるのではないかと感じた。

この研修で、他高専の技術職員の充実した活動内容を知り、情報交換ができたことは実に有意義であった。